科目ナンバリング	U-LAS14 20010 LJ68						
授業科目名<英訳>	自然人類学Ⅰ Physical Anthropology I			担当者所属職名・氏名	理学研究科　教授　中村　美知夫 理学研究科　助教　田村　大也		
群	自然科学科目群	分野(分類)	生物学(各論)		使用言語	日本語	
旧群	B群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	水2	配当学年	主として1・2回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

「私はいったい何者なのか？」「人間とは、人間性とは何なのか？」
誰もが一度は問うたことがあるのではないでしょうか。

自然人類学は、人間もまた一つの生物種（ヒト）であると捉えることでこの問いにアプローチする学問です。その際に重要な視点の一つが、ヒトをヒトに近縁な他の生物種と比較してみることです。前期開講の「自然人類学I」では、フィールドワークを通して分かってきた現生の野生霊長類の社会や生態、行動に関するさまざまな知見を紹介しつつ、上記の問題について考えます。

人間について知ろうとする学問の多くは、しばしば人間の特殊性を強調することが多いですが、本講義ではできる限りヒトを相対化し、他の霊長類や動物と比較することを通じて人間を知ることに繋げたいと思います。

[到達目標]

霊長類の社会・生態・行動などに関する基礎的な知見を身につけるとともに、自分自身が属する種（ヒト）をその中に位置付けるという考え方を養う。

[授業計画と内容]

第1回イントロダクション：自然における「人間」の位置（中村）
ヒトはしばしば「人間と動物」という区分で自分自身を特別視しますが、ヒトもまた一動物種です。霊長類をはじめとした他の動物との比較によって、生物としてのヒトについて考えます。

第2回霊長類の特徴と分類（中村）
種の概念や上位分類群名など生物分類を理解する上での最低限の知識を把握し、実際に現生霊長類がどのような特徴に基づいてどのように分類されているのかについて学びます。

第3回日本霊長類学の研究史（中村）
野生霊長類の研究は、古くから日本人研究者（とくに京都大学の研究者）が先導してきた分野です。ここでは、日本での霊長類研究史を概観し、それが現在の研究動向にどう関わっているのかを考えます。

第4回野生霊長類の調査方法（中村）
フィールドでの霊長類調査はどういった形でなされているのでしょうか。ここでは霊長類学の調査方法についての概要を理解し、研究における方法論の重要性について考えます。

第5回生態（田村）
すべての生物は、必ず他の生物と関わり合って暮らしています。野生の霊長類が何を食べているか、捕食者に襲われることはあるのかなどを学びつつ、それらがヒトの場合どうなっているのかを考えます。

自然人類学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

自然人類学Ⅰ(2)

第6回採食技術（田村）
ヒトは食べるためにさまざまな技術を用います。ヒト以外の霊長類でも食べるためには、さまざまな形態的・行動的適応があります。道具使用なども含めて、霊長類の採食技術について考えます。

第7回社会（田村）
霊長類の多くは社会的な生活を送ります。霊長類の社会構造・社会関係・インタラクションに関する知見を概観しつつ、ヒトの社会がどのように成立したかについて考えます。

第8回個体の発達と生活史（田村）
発達・繁殖・出産・老化など、個体の一生の間に生じるイベントなどを学び、霊長類の中でのヒトの発達や生活史の特徴について考えます。

第9回子育て（田村）
現代のヒト社会では、子育ては両親が揃ってやることが多く、場合によっては祖父母も子育てに協力します。他の霊長類での子育てはどうでしょうか。父親の存在なども含めて、子育てについて考えます。

第10回攻撃性（田村）
殺人や戦争など、人間社会では「悪」が尽きることはありません。霊長類社会での殺し・暴力・ハラスメントについて検討し、人間社会では「悪」と考えられるような現象の起源について考えます。

第11回知性（田村）
知性はヒトを特徴付ける特徴であり、また霊長類を特徴付ける特徴の一つだと考えられています。生態的知性・社会的知性・欺瞞などの例から、霊長類における知性の進化について考えます。

第12回文化（田村）
人間の行動はしばしば生物学的にではなく文化的に決定されると言われます。ここでは、霊長類における文化的な行動の違いや社会的学習などについて学び、文化の起源について考えます。

第13回言語（田村）
分節化された音声言語を持つことはヒト独特の特徴です。霊長類の音声コミュニケーションや身振りの研究、さまざまな言語進化仮説等について学び、ヒトの言語の起源について考えます。

第14回霊長類の危機と保全（中村）
多くの霊長類の絶滅が危惧されており、霊長類を知ることと霊長類を保全することはもはや完全に切り離すことができません。絶滅を防ぐために身近なところで私たちができることなどについて考えます。

≪試験≫

第15回フィードバック（中村・田村）

各回の担当者は予定です。フィールド調査の関係などで変更になる場合があります。

自然人類学Ⅰ(3)へ続く↓↓↓

自然人類学Ⅰ(3)

[履修要件]

自然人類学IIもぜひ受講してください。
高校での「生物」の履修は不要です。授業中必要になる知識については、授業内で適宜補足します。

[成績評価の方法・観点]

定期試験（筆記）で評価します。この評価は絶対評価（素点）で行います。

[教科書]

中村美知夫・森本直記 『自然人類学』（昭和堂）ISBN:9784812224144（本書の内容の一部は自然人類学IIで扱われる内容ですので、必ずしも教科書に沿って講義するわけではありませんが、試験はこの本の中に書かれている範囲から出題します。）

[参考書等]

（参考書）
中村美知夫 『「サル学」の系譜』（中公叢書）ISBN:978-4120047565（2015年，1,900 円+税）
西田利貞 『人間性はどこから来たか』（京都大学学術出版会）ISBN:4-87698-079-9（1999年（2007年），2,800円（学術選書版1,800円））
山極寿一 『人類進化論－霊長類学からの展開』（裳華房）ISBN:ISBN978-4-7853-5217-2（2008年，1,900円）
西田利貞・上原重男編 『霊長類学を学ぶ人のために』（世界思想社）ISBN:4-7907-0743-1（1999年，2,400円）
中村美知夫 『チンパンジー』（中公新書）（2009年、724円（現在電子書籍で入手可））
上記以外は、必要に応じて授業中に紹介します。

（関連ＵＲＬ）

http://jinrui.zool.kyoto-u.ac.jp/

[授業外学修（予習・復習）等]

自分なりにノートを整理するなどして、授業中に分からなかった点をクリアにしておくとよいでしょう。

[その他（オフィスアワー等）]

プリント等の配布はしません。自分なりに要点をまとめながらメモをとる訓練をしましょう。
写真や動画などの映像資料も極力使用して、フィールド観察から得られた結果であることを体感してもらえるようにします。

[主要授業科目（学部・学科名）]

理学部